



IIEE Newsletter



2013年12月26日

第104号

独立行政法人建築研究所国際地震工学センター

〒305-0802 茨城県つくば市立原1 TEL 029-879-0678 FAX 029-864-6777

今月の話題

- 米国地球物理学連合 2013年秋季大会
- ニカラグアへの JICA 技術協力
- 第15回日韓台合同地震工学セミナー
- 日本物理探査学会国際シンポジウム
- 研修生からのレター
- グローバル地震観測コース
- シノプシス データベース
- IIEE スタッフ

研修 データベース

IIEENET(地震防災技術情報ネット)

IIEE-UNESCO レクチャーノート

Eラーニング

シノプシス・データベース(修士論文概要)

Bulletin データベース

米国地球物理学連合 2013年秋季大会

国際地震工学センター 上席研究員 原 辰彦

12月9日から13日にサンフランシスコで開催された米国地球物理学連合2013年秋季大会に参加しました。国際地震工学センターからは他に芝崎上席研究員が参加しました。

私は「巨大地震」のセッションで「高周波震動継続時間の計測による断層運動の決定」というタイトルでポスター発表をしました。芝崎氏はセッション「スロースリップ、微動、地震との相互作用」で、「メキシコ、ゲレロ、オアハカ地域、沈み込みプレート境界におけるスロースリップと大地震との相互作用のモデル化」に関する論文を発表しました。大会期間中、国際地震工学センターの研修修了生何人かに会い、その活躍を聞くことが出来ました。

地震に強い住居建設技術改善プロジェクト

国際地震工学センター 研究員 谷 昌典

2013年11月14日から23日まで、ニカラグア・マナグアにて行われた JICA 技術協力プロジェクト「地震に強い住居建設技術改善プロジェクト」の終了時評価に耐震工学の専門家として参加しました。



ニカラグアのマナグア

この技術協力プロジェクトは「TAISHIN プロジェクト」と称され、2011年10月から2013年9月までの期間に実施されました。国立工科大学(UNI)が主体となって、ニカラグアの低所得者向け住宅に最もよく使われるコンクリートブロック(CB)を用いた枠組み組積造の耐震性の確保に向けた取り組みが行われました。

本年度は UNI から TAISHIN プロジェクトの一員であった Erasmo Jose Aguilar Arriola 氏(Eコース)が研修に参加しています。将来、研修で学んだ成果が活用され、ニカラグアで地震に強い住居の普及が進むことを期待しています。

地震データベース

2011年3月11日東北地方太平洋沖地震

地震情報

宇津カタログ(世界の地震被害)

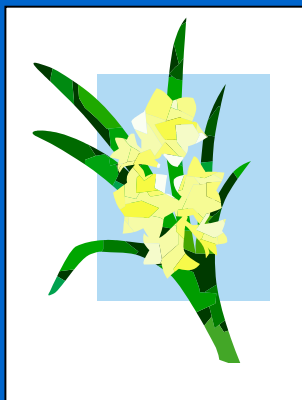
地震カタログ(世界の大地震の震源メカニズム、余震分布等)

論文募集

IISEE Bulletin は、現在地震学、地震工学、津波に関する論文を募集しております。開発途上国に関するものを対象としていますが、それに限らず募集しています。

送って頂いた未発表の論文は、編集委員会と専門家による査読を行います。投稿料は無料です。

是非チャレンジして下さい。

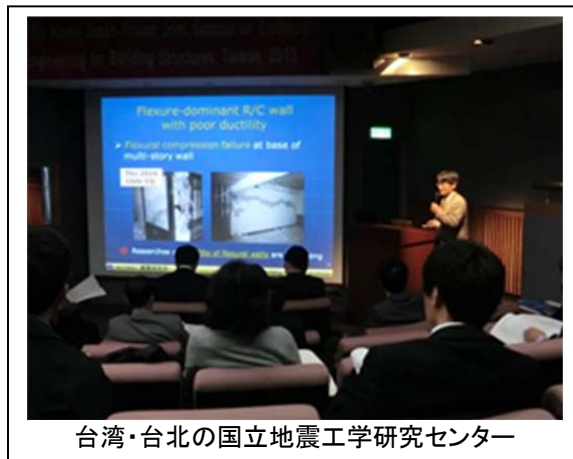


第15回日韓台合同地震工学セミナー

国際地震工学センター 研究員 谷 昌典

2013年11月28日～29日に台湾・台北の国立地震工学研究センター(NCREE)にて開催された第15回日韓台合同地震工学セミナー(SEEBUS)に出席し、投稿論文「RC造耐力壁のせん断すべり破壊に関する検討」の発表を行いました。

このセミナーは日本・台湾・韓国の3か国の地震工学に携わる技術者・研究者らが集まる国際会議で、1999年に第1回が開催されて以降、年1回の頻度で開催されています。



台湾・台北の国立地震工学研究センター

本年は各国から地震工学に関連する約30編の論文が投稿され、元研修生で現在は東京工業大学博士後期過程に在籍中のRafik Taleb氏(2009-2010、Eコース)も、個人研修で実施したRC造有開口耐力壁のせん断挙動に関する研究について発表を行っていました。

セミナーの規模はさほど大きくはありませんが、各国における最新の地震工学に関する技術、研究成果などについての情報交換および意見交換が行うことができました。皆さんとこのような国際学会でお会いできることを楽しみにしております。

日本物理探査学会国際シンポジウム

国際地震工学センター長 横井俊明

第11回日本物理探査学会国際シンポジウム(持続可能な安全な社会を構築する地球物理学)が11月18日から21日まで、横浜市で開催され、2つのキーノートレクチャー、と下記の物理探査技術の最新の研究成果について107の口頭発表、39のポスター発表が行われました。

その対象は、炭化水素、鉱物、地下水、地熱などの天然資源や地盤構造等の工学目的と幅広く、また手法も、地震波・重力・電気・磁気・電磁波と幅広いものでした。探査目的の地球物理学は、地震学のもう一つの顔であり、建設工学に有用な情報を提供しています。私には、このシンポジウムは非常に興味深いものでした。



楽しむのは今です。

連絡先

IISEE ニュースレターは、IISEE と卒業生の架け橋を目指しています。

ニュースレターへの報告や記事をお待ちしております。皆様の自国でのご活躍をお知らせ下さい。

また、皆様の同僚やお友達もこのメーリングリストに登録するようにお誘い下さい。

iiseenews@kenken.go.jp
<http://iisee.kenken.go.jp>

バックナンバーは下記をご覧ください。

<http://iisee.kenken.go.jp/nldb/>

研修生からのレター

☒ 元研修生から博士号取得の連絡がありました。今後の活躍をお祈りいたします。

Dr. Hussam Eldein ZAINEH (シリア, 2006-07 地震工学コース)

授与大学: 東京工業大学大学院総合理工学研究科環境理工学創造専攻

論文題名: ローカルサイトの増幅を考慮にいたした地震シミュレーションによるシリア・ダマスカスの地震マイクロゾーニングの研究

授与日 : 2013 年 3 月

グローバル地震観測コース: 来月開催

独立行政法人建築研究所では、平成 26 年 1 月 21 日(火)～3 月 14 日(金)までの約 2 ヶ月間、7 ヶ国から 9 名の研修生を受け入れて、「第 19 回国際地震工学研修グローバル地震観測コース」を開催します。1 月 21 日に実施される開講式には、国連の関係機関である包括的核実験禁止条約機関(CTBTO)準備委員会暫定技術事務局国際データセンター(IDC) ランディー・ベル局長が来賓として出席されます。

独立行政法人建築研究所は、開発途上国の研究者・技術者を対象とした地震学・地震工学の研修を行っています。この研修の実績が広まったこともあり、外務省から、地震学を活用して核実験を識別する技術を習得した人材の育成を目的とするグローバル地震観測に関する研修コースの要請がありました。これらを勘案し、IISEE は、国際平和の構築のための日本政府の貢献策の一つとして、1995 年から、国際協力機構(JICA)及び気象庁と協力し、「グローバル地震観測コース」を実施しております。毎年約 10 名の研修員が参加しています。

2012年-2013年修士論文シノプシス HP 掲載

国際地震工学センター管理室長 飯場自子

ニュースレターをご覧頂いている皆様、IISEE ウェブサイトの**シノプシス・データベース(修士論文概要)**が新しくなりました。2012年-2013年研修生の修士論文の「概要(シノプシス)」を追加しています。15ヶ国21人の研修生は IISEE の個人研修期間に修士論文を完成させ、政策研究大学院大学(GRIPS)と IISEE から防災政策修士号を取得しました。色のついている「**データベースへ**」をクリックし、是非**シノプシス・データベース**をご覧ください。

<http://iisee.kenken.go.jp/syndb/>



IISEE スタッフの紹介

国際地震工学センターは小さな組織です。常勤職員は10人の研究者と2人の管理室職員です。では、**だれがこの研修を動かしているのでしょうか？**それは明らかに秘書や事務補助をしている非常勤職員の皆さんです。非常勤職員は、3年又は5年までの契約期間で雇用されていますが、全員優秀で研修生の良き友人でもあります。



現在、非常勤職員は16人います。雇用条件は、フルタイム勤務から週一勤務までさまざまです。フルタイムの非常勤職員は、管理室、図書室、研究室に勤務しております。非常勤職員は、IISEEの公式行事である開講式・閉講式の行事だけでなく、研修生の誕生会等を自主的に実施しています。



活躍している同職員、西沢、副島、滝川、小林、難波、鵜生川、峯島、アムジャドを紹介します。本ニュースレターを担当している難波職員はもうすぐ雇用期間が満了となります。IISEEを支えてくれた同氏に感謝しています。もうすぐ赤ちゃんが生まれるそうです。

